

# 令和6年度 学校評価 生徒対象アンケート集計結果

全学年

※ 評価 A:よくあてはまる B:だいたいあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない ? :わからない

	評 価 内 容	評価(%)				
		A	B	C	D	?
1	あなたは、進んであいさつをしている。	47%	46.2%	5.4%	0.8%	0.6%
2	あなたは、基本的生活習慣が身についている。	26.0%	59.4%	9.9%	2.1%	2.5%
3	あなたは、学校が楽しい。	45.0%	44.5%	5.0%	1.7%	3.7%
4	あなたは、授業の内容を理解している。	20.8%	61.9%	13.8%	2.3%	1.2%
5	あなたは、家庭学習をしている。	24.9%	42.3%	25.2%	6.4%	1.2%
6	あなたは、よく読書をする。	18.4%	27.0%	32.2%	20.6%	1.7%
7	あなたは、期日を守って提出物を出している	39.4%	46.4%	10.9%	3.1%	0.2%
8	あなたは、部活動や習い事に一生懸命取り組んでいる。	63.7%	24.9%	4.1%	2.7%	4.7%
9	あなたは、自分の健康に気を配って生活している	32.6%	46.2%	16.1%	3.7%	1.4%
10	あなたは、ルールやマナーを守るように心がけて生活している。	53.6%	43.7%	1.7%	0.2%	0.8%
11	あなたは登下校を含め、安全に気をつけて生活している。	57.3%	37.7%	3.5%	0.6%	1.0%
12	あなたは、困ったときに相談できる先生がいる。	39.4%	39.4%	7.4%	3.7%	10.1%
13	学校は、生徒の悩みや困り事に適切に対応している。	29.7%	44.9%	7.2%	2.3%	15.9%
14	学校は、アンケート調査を実施するなど、いじめの早期発見・対応に努めている。	47.0%	39.0%	3.1%	1.9%	8.9%
15	授業では、話し合い活動をよく行っている。	49.1%	45.4%	3.7%	1.0%	0.8%
16	授業では、その時間の「目標」が提示されている。	28.9%	52.2%	10.3%	2.5%	6.0%
17	習志野台中は、行事が盛り上がる。	68.5%	24.9%	2.7%	0.0%	3.9%
18	習志野台中は、学習や運動しやすい環境が整っている。	46.2%	43.7%	4.7%	0.6%	4.9%
19	習志野台中には、自慢できること（もの）がある。	31.3%	38.1%	11.5%	3.9%	15.3%
20	学校は、授業等でICT機器（Chromebookや電子黒板等）をよく活用している。	54.8%	39.0%	3.3%	0.8%	2.1%

# 令和6年度 学校評価 保護者対象アンケート集計結果

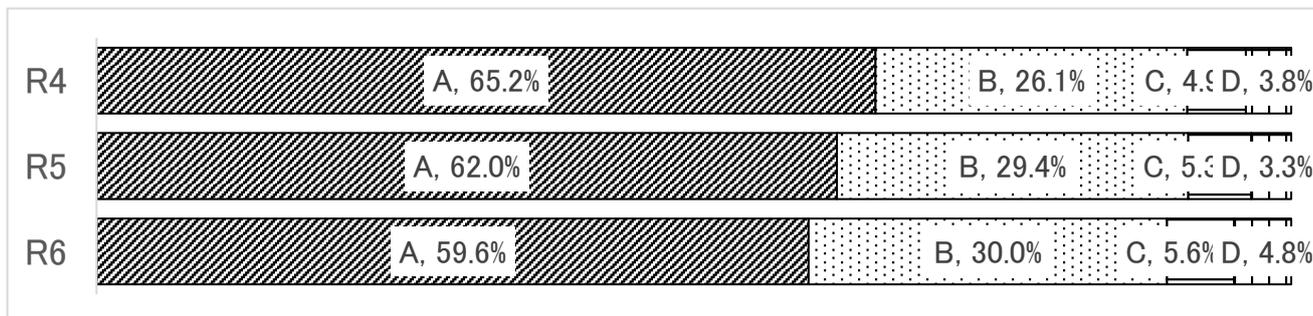
※ 表記について

A そう思う B ほぼそう思う C あまりそう思わない D そう思わない

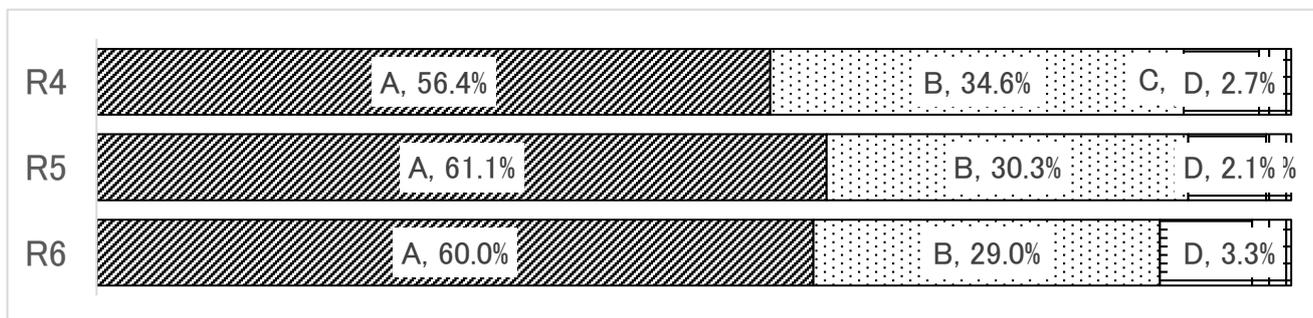
※ グラフの並びについて

上段：令和4年度 中段：令和5年度 下段：令和6年度

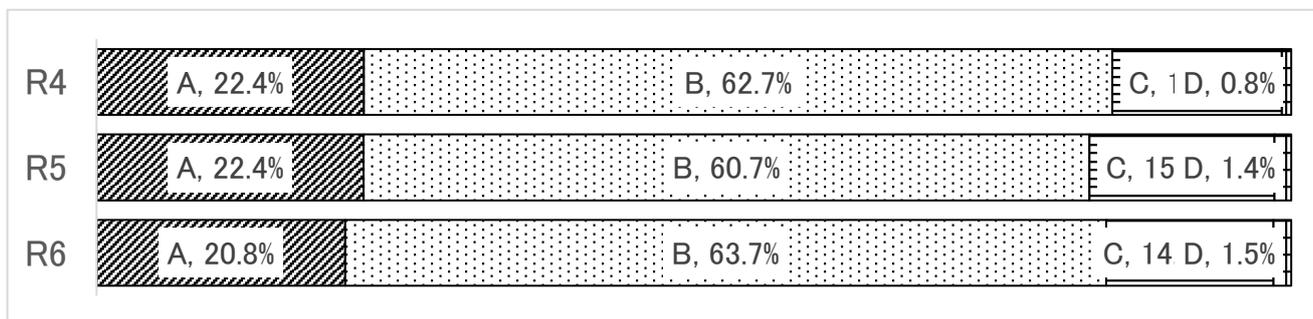
1 子供は、毎朝すすんで学校に登校している。



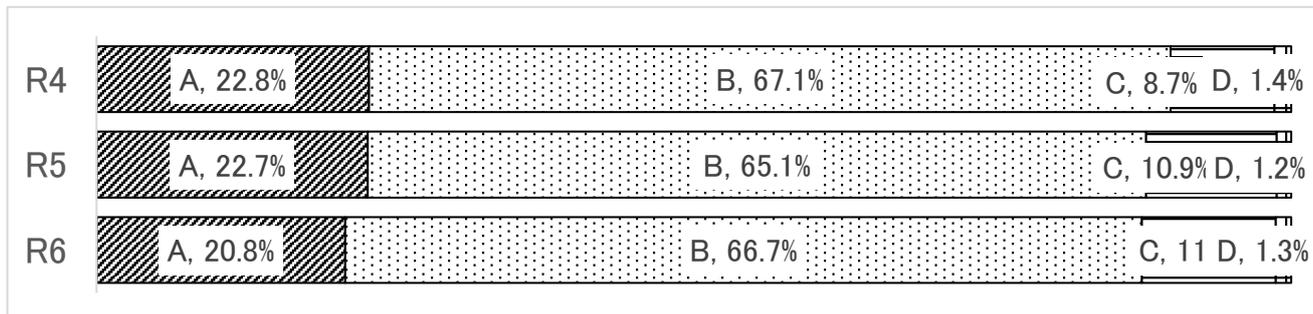
2 子供は体育祭、合唱祭等の行事を楽しみにし、積極的に参加している。



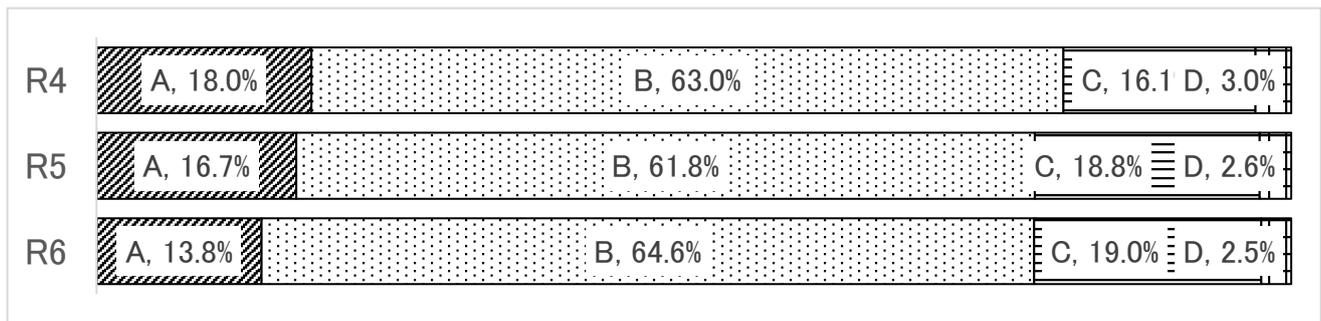
3 学校は、校訓および教育目標（「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒の育成～）や目指す生徒像を分かりやすく伝えている。



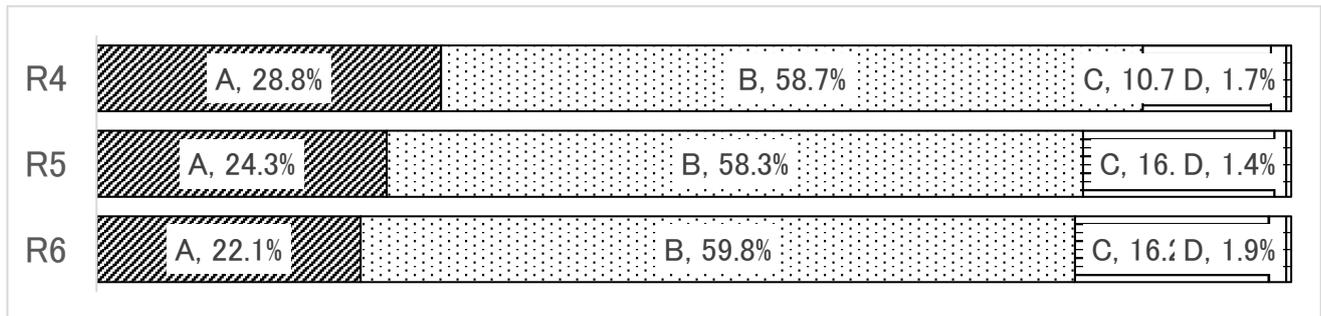
4 学校の教育活動は、保護者の期待や願いにそっている。



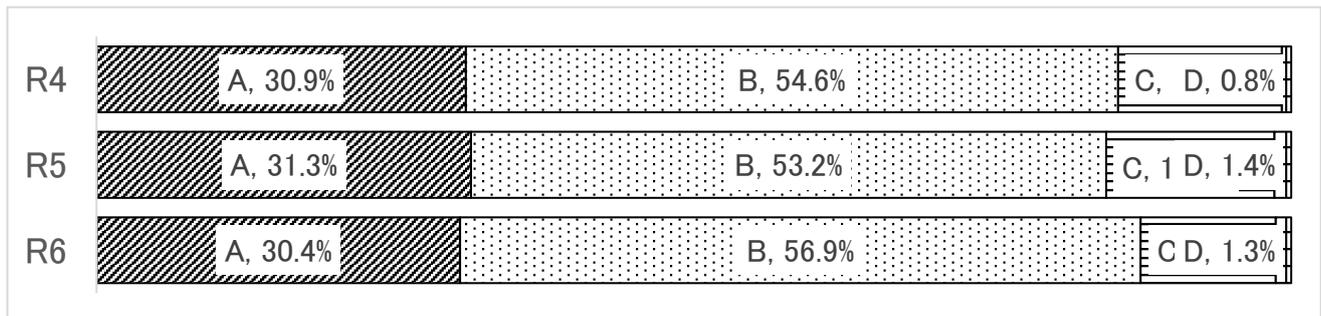
5 学校は「わかる授業」の実践、定期テスト前の質問会の開設等を通して、授業の内容を理解できるように取り組んでいる。



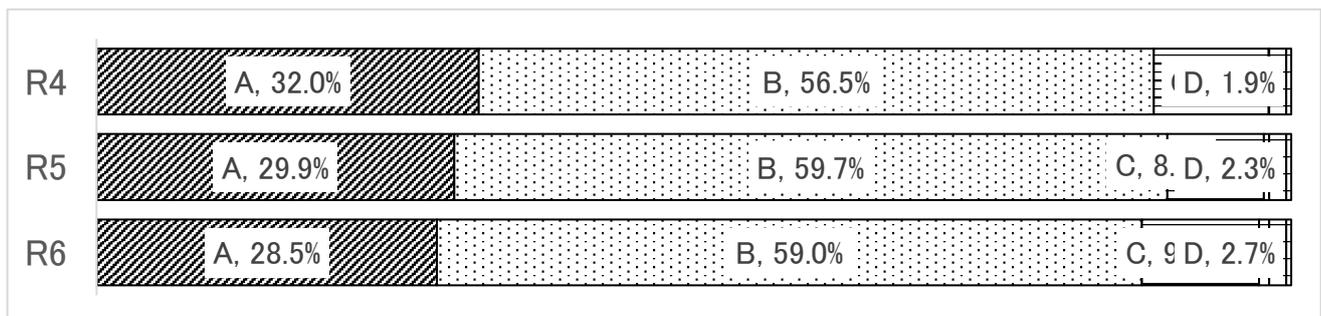
6 学校は通知表の評価等を説明したプリントを配付する等、子供の様子や評価についてわかるようにしている。



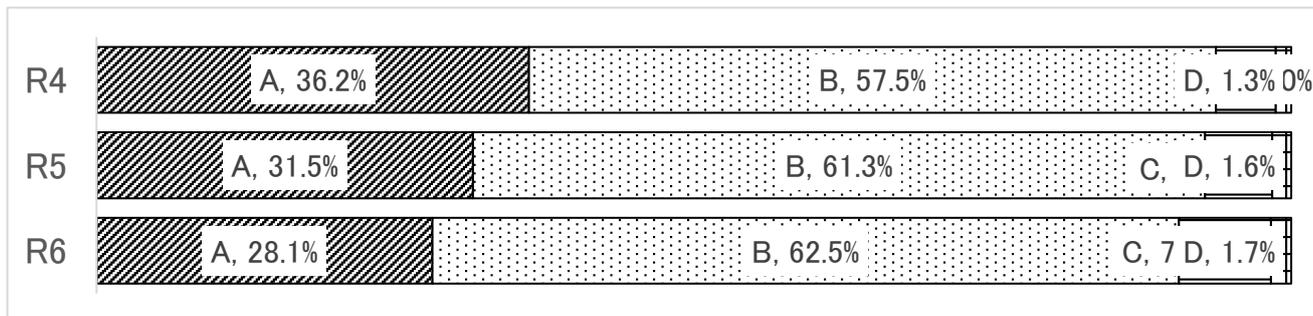
7 学校は子供のことで何か様子の変化があるときに、保護者が連絡や相談しやすい体制を整えている。



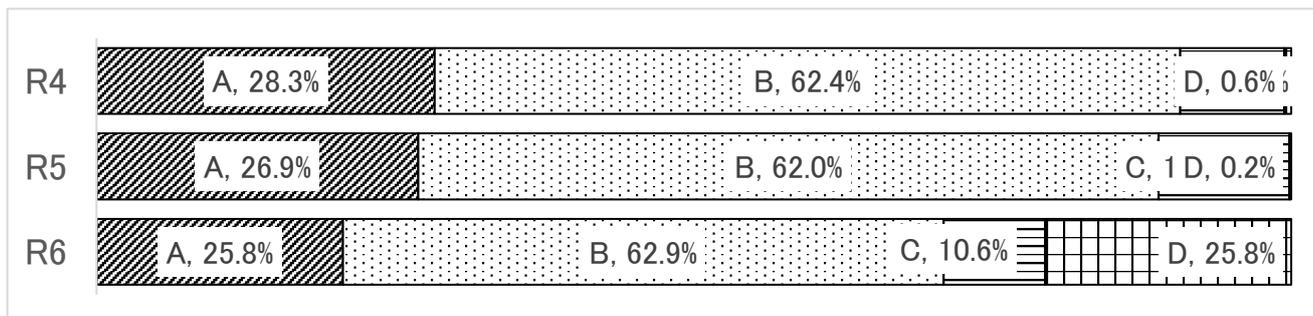
8 教職員は、生徒の人権を尊重する姿勢で指導に当たっている。



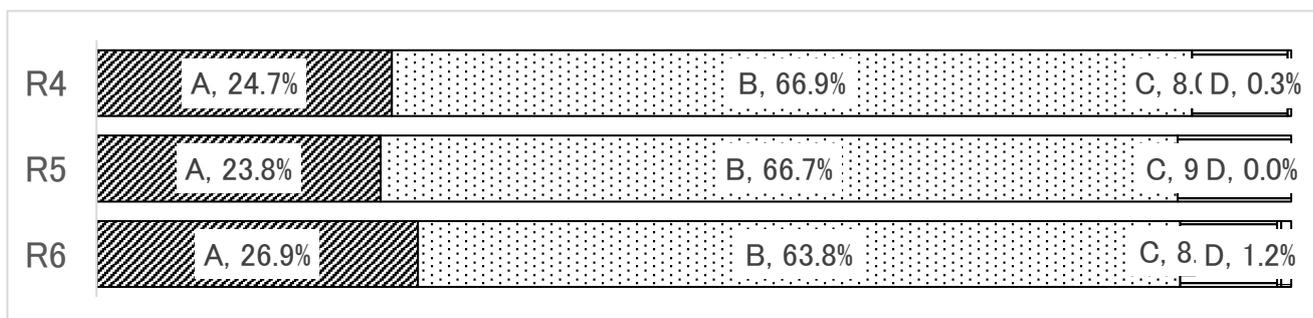
9 学校は、「学校いじめ防止基本方針」が公表され、いじめアンケートの実施（年3回）、いじめ相談窓口の設置等をとおして、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。



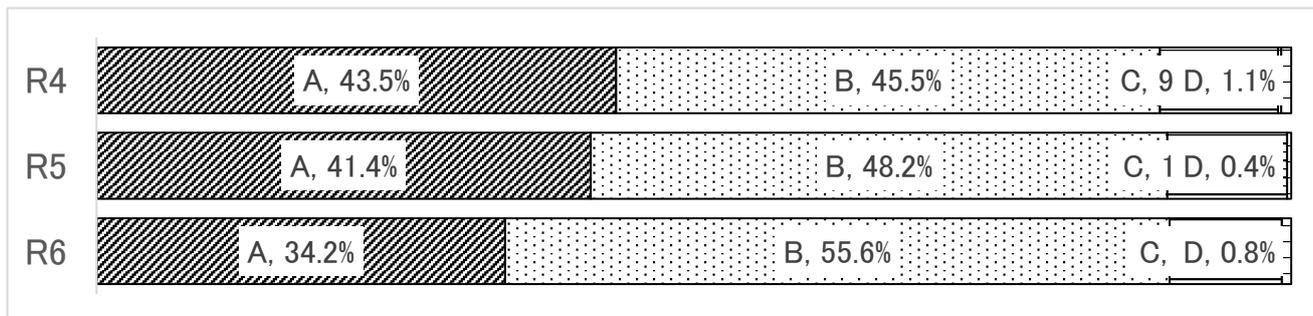
10 学校は、教育相談週間の設定（年2回）、スクールカウンセラーの活用（随時）等、子供が相談しやすい体制を整えている。



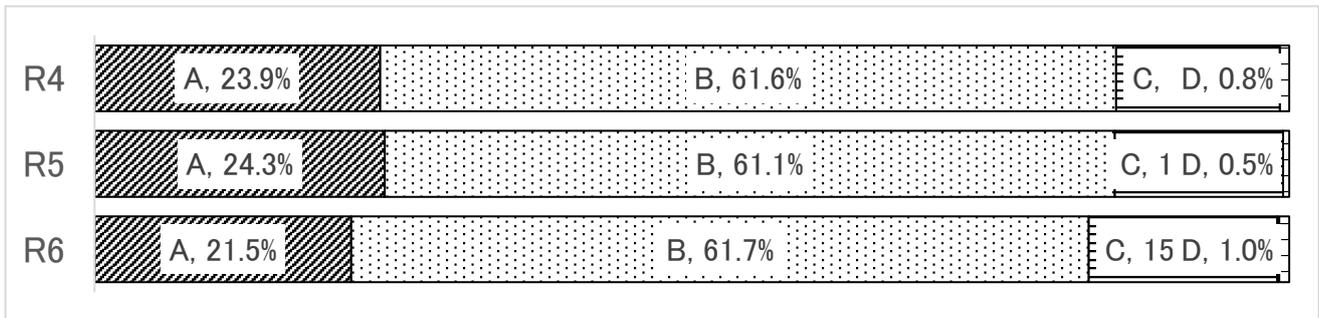
11 学校は、校舎内外の環境整備に取り組んでいる。



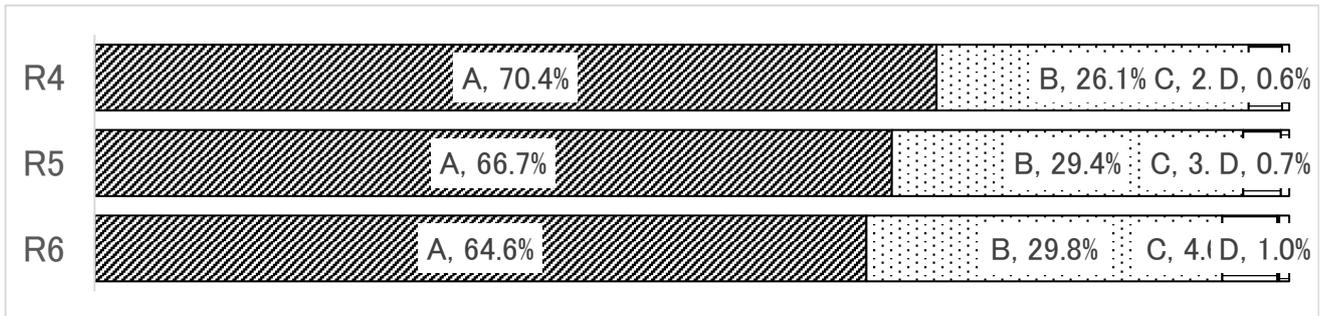
12 学校では、PTA活動が活発である。



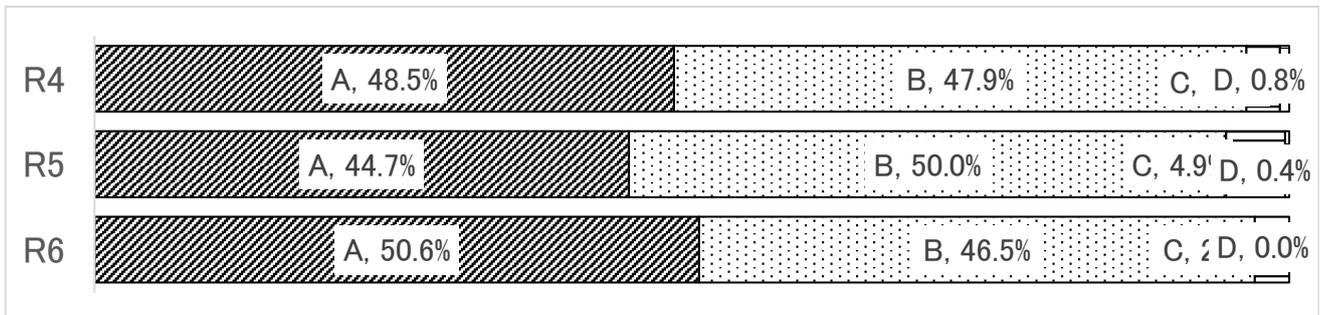
13 学校は、家庭や地域と連携して子供を育てる環境づくりに取り組んでいる。



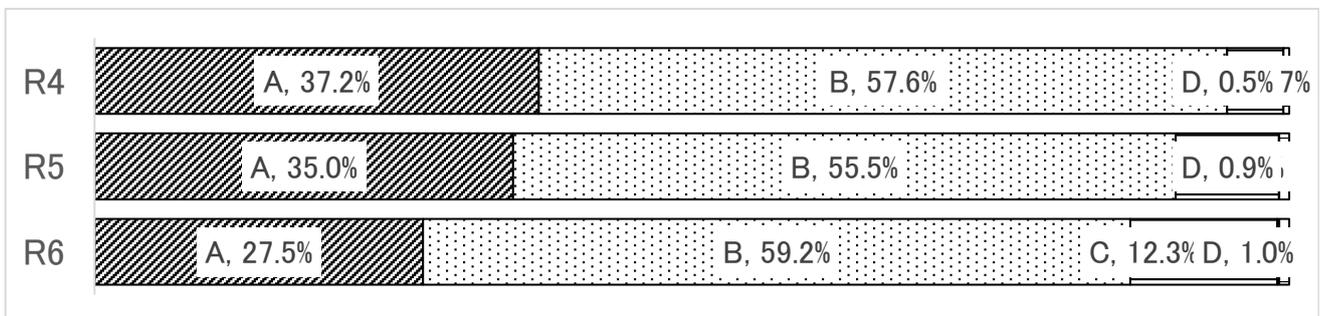
14 学校は、暑い時期の登下校の服装について配慮している。



15 学校は、「習台通信」「学年だより」「学校配信メール」等で、情報提供を適切に行っている。



16 学校は、各種感染症対策を適切に行っている。



# 令和6年度 学校自己評価 教職員対象アンケート集計結果

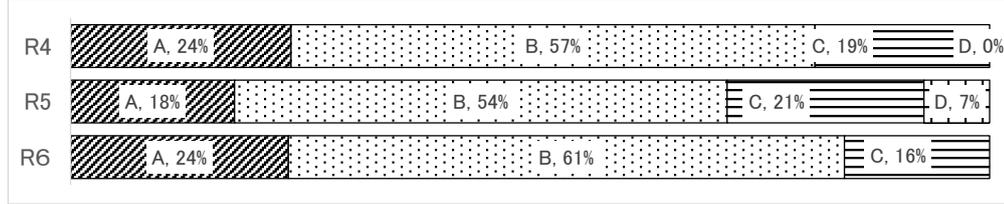
※ 表記について

A そう思う B ほぼそう思う C あまりそう思わない D そう思わない

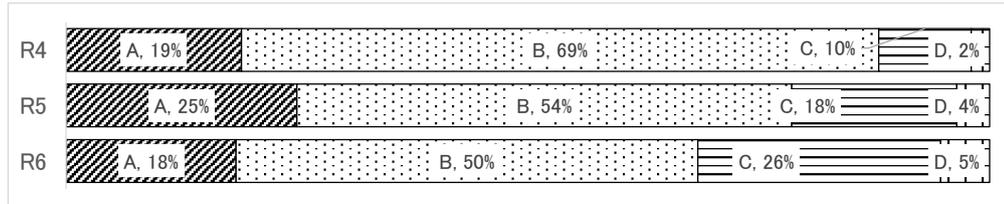
※ グラフの並びについて

上段：令和4年度 中段：令和5年度 下段：令和6年度

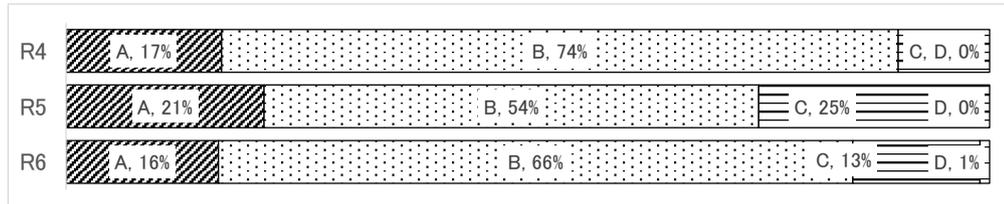
**1 校訓および学校教育目標（「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒の育成～）の具現化に向け、「目指す生徒像」（自学・挨拶・掃除・時間）に迫ることができた。**



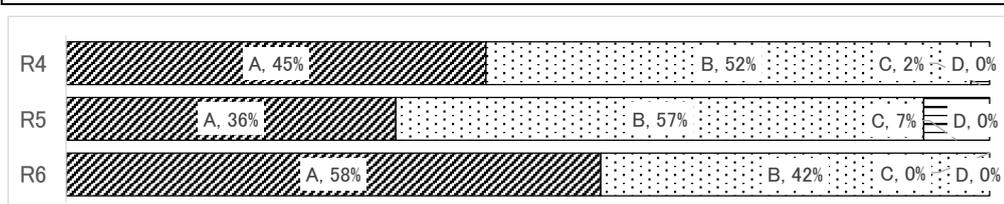
**2 校訓および学校教育目標（「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒～）の具現化に向け、「目指す教職員像」（生徒に寄り添う・わかる授業・地域を愛する）に迫ることができた。**



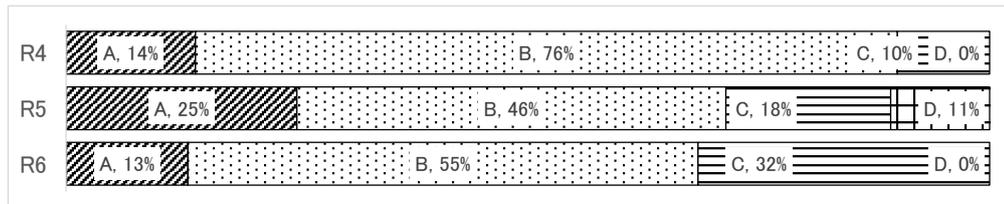
**3 校訓および学校教育目標（「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒～）の具現化に向け、「目指す学校像」（学ぶ意欲・正義・安全・応じた支援・信頼）に迫ることができた。**



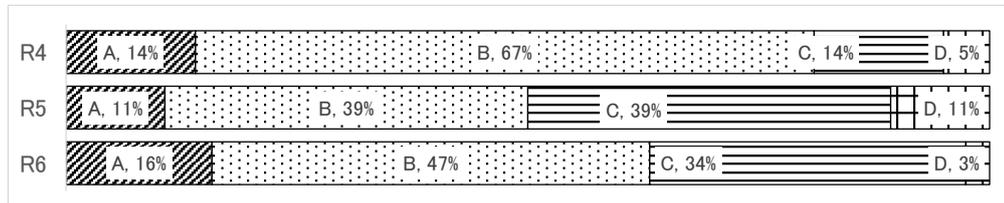
**4 校訓および学校教育目標は、学校・生徒・地域の実態に即していた。**



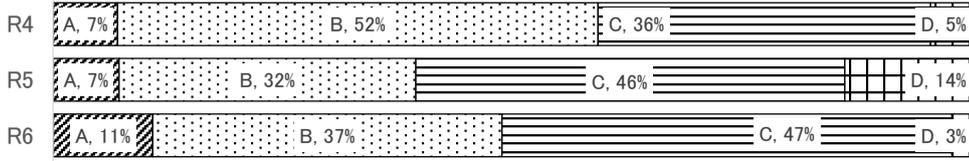
**5 職員は、校訓および学校教育目標や重点目標の意義を理解し、その実現に向け協同して教育を実践していた。**



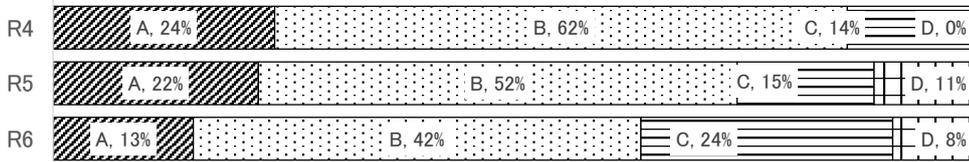
**6 校務分掌組織の形態は、本校の実情に即し機能的なものになっていた。**



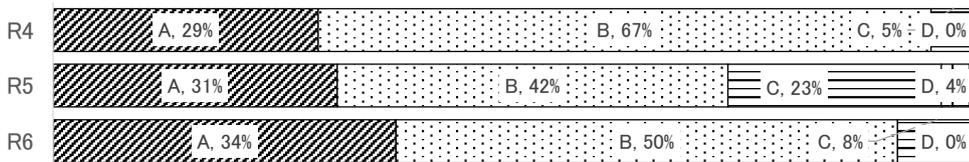
7 職員の各組織への配置は、人数や構成メンバーの教科・年齢・経験・特性などからみて適切であった。



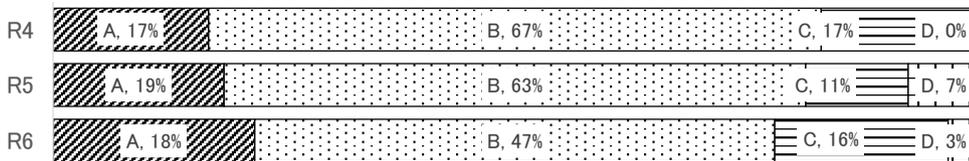
8 学年内の分掌や組織をととして、各自がリーダーシップを発揮し、スムーズな学年運営が進められていた。



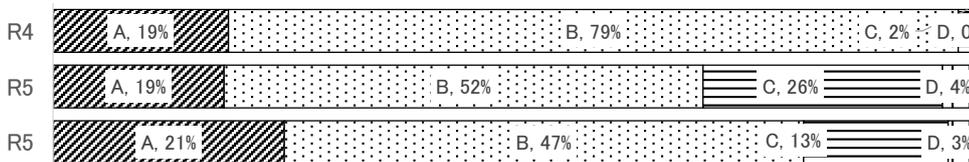
9 学年保護者会、学級懇談会、保護者面談等の計画および運営は適切であった。



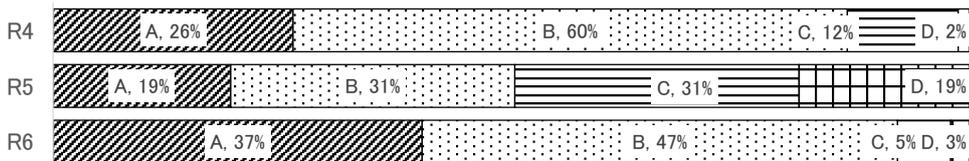
10 学級の学習環境・生活環境は適切であり、生徒の成長を促すものであった。



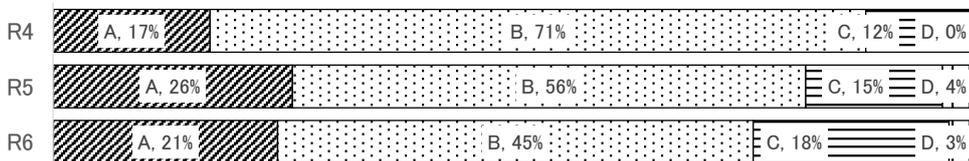
11 学級活動を活性化させ、生徒自らがより良い学級・学校づくりに向け、諸問題の解決に努める態度を養うことができた。



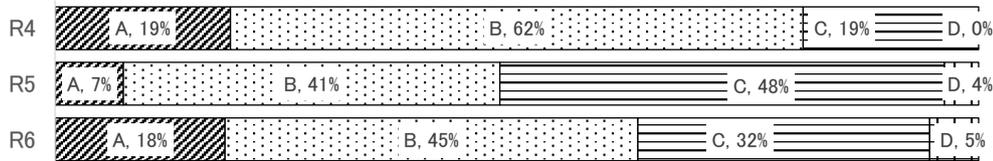
12 教育課程（各教科道徳特活行事等）は全体的な調和のもとに編成されていた。



13 教科の年間指導計画や学習指導案は改善され、より適切なものとなった。



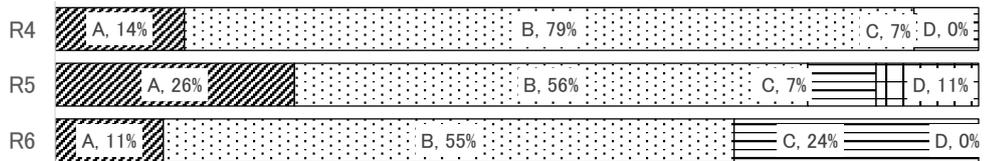
14 学校行事の種類・内容・実施時期・規模等は適切であった。



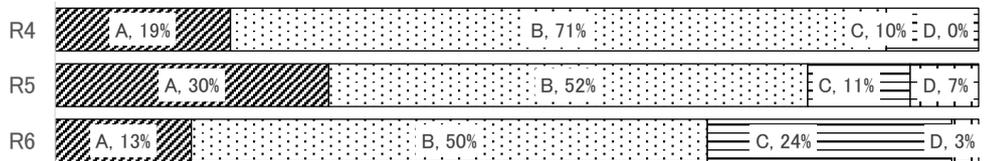
15 「わかる授業」を展開するとともに、学習優先日や試験前質問会をとおして、基礎学力の定着に努めた。



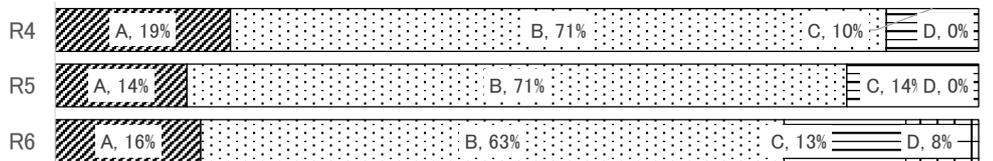
16 授業において、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力をのばす工夫をした。



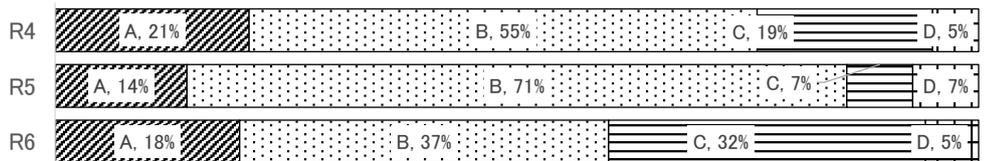
17 目標単位の評価について十分理解し実践するとともに、自己評価や相互評価を取り入れ、指導と評価の一体化に努めた。



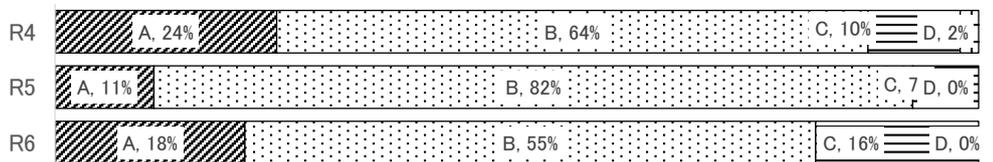
18 教育活動全般をとおして、基本的な生活習慣を身につけさせることができた。



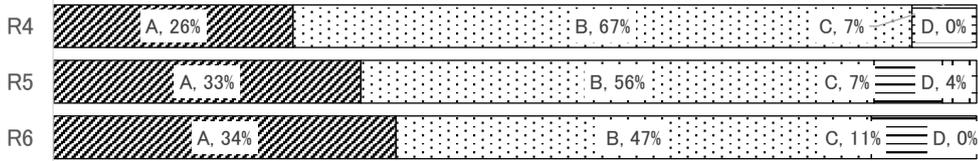
19 担任一人任せにせず、職員の共通理解と相互協力のもとで、生活指導を組織的にすすめることができた。



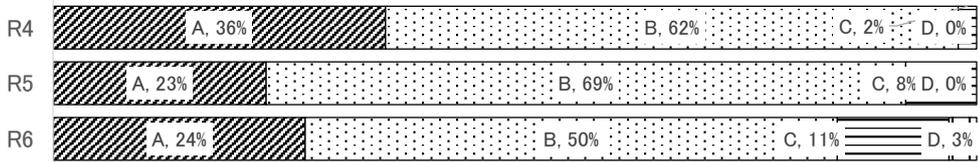
20 生徒と教師間の「語り合い」や教育相談（教育相談習慣・チャンス相談）等をおし、生徒理解を進めるとともに、好ましい信頼関係を築くことができた。



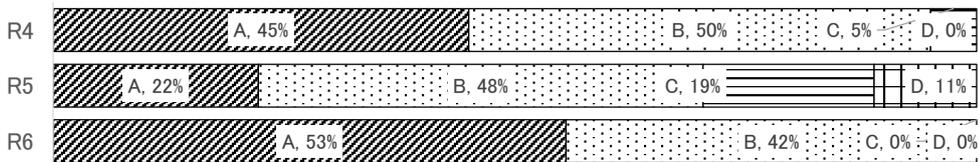
21 いじめアンケート等も活用しながら、生徒の人間関係にアンテナを高くし、いじめの「早期発見・早期対応」及び「再発防止」に努めた。



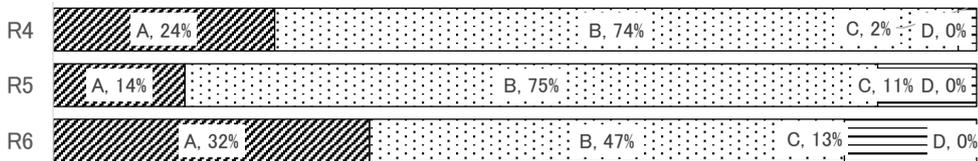
22 道徳の授業を計画的に実施するとともに、教育活動全体をととして生徒の「豊かな心」の育成に努めた。



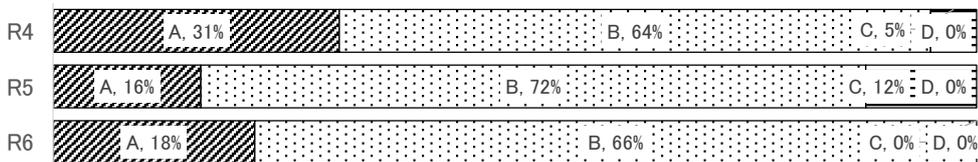
23 生徒会活動（全校評議会、生徒会行事、専門委員会等）は適切に実施された。



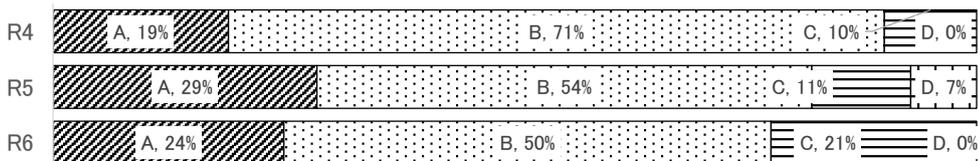
24 生徒が役割と責任を自覚し自立した集団作りができるよう促すことができた。



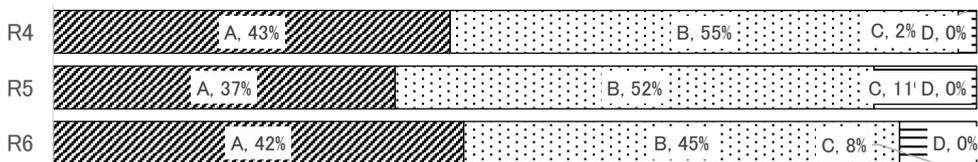
25 部活動は計画的な運営により自主性を促し、生徒の責任感や連帯感を養うことができた。



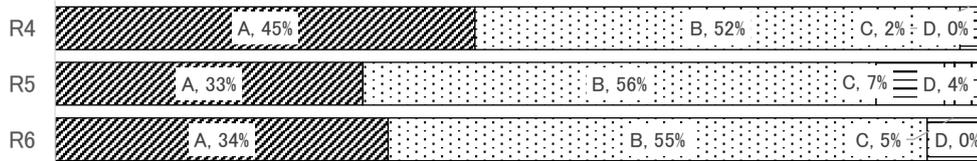
26 危機管理マニュアルに基づき、安全（交通安全・生活安全・災害安全）に関する指導が計画的に行われていた。



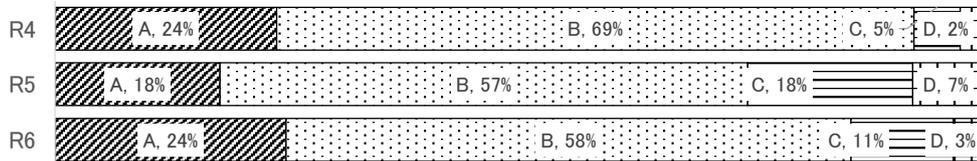
27 学校の給食計画に基づき、給食指導と食育が適切に行われていた。



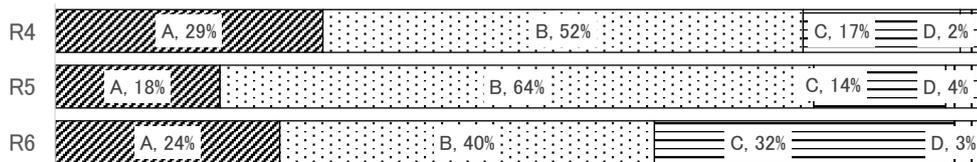
28 学校の保健計画に基づき、生徒の健康指導と管理が適切に行われていた。



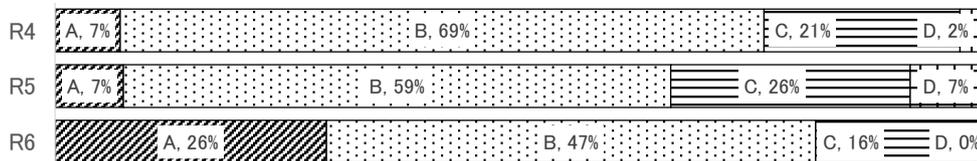
29 生徒支援・特別支援について、学校として適切な指導体制を構築することができた。



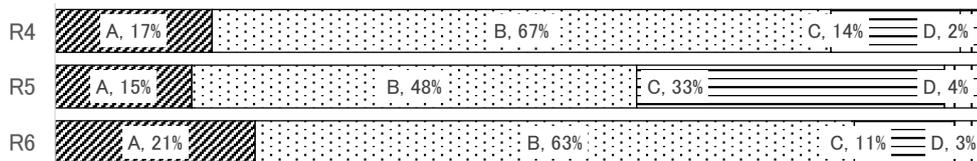
30 各職員が、特別な支援を必要とする生徒を理解し対応することができた。



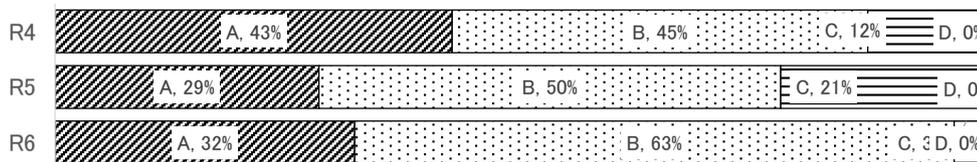
31 長欠傾向の生徒に対する指導は十分であった。



32 学校の施設・設備及び備品の管理は適切であった。



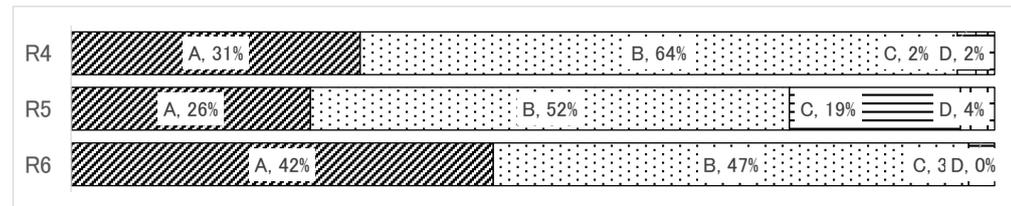
33 情報セキュリティに配慮するとともに、個人情報等の管理は適切であった。



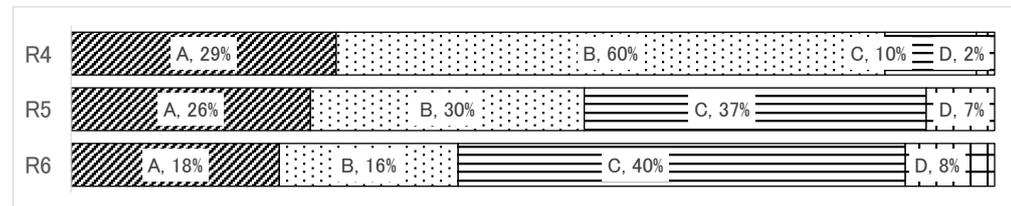
34 本校におけるPTAの活動は適切であった。



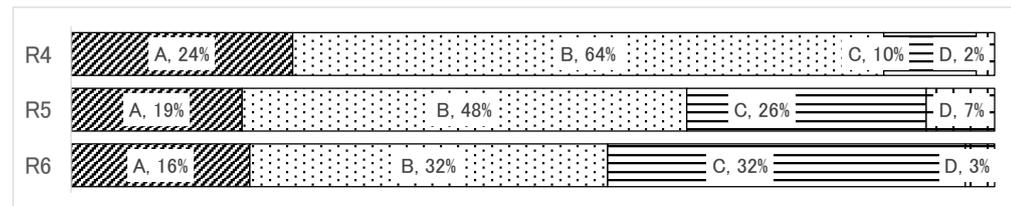
35 生徒の育成にあたり、保護者・地域の方との連携を図り、活動できた。



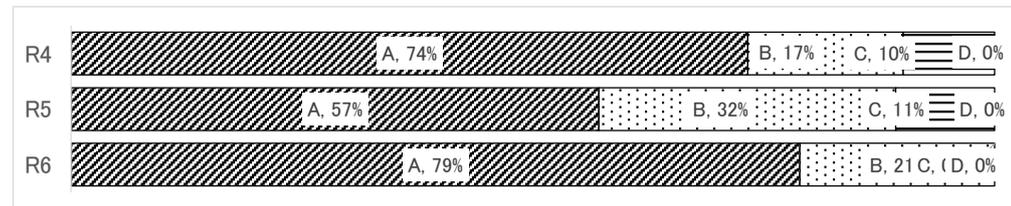
36 教科部会や研究テーマに沿った研修会が計画的に実施され、授業研究を進めることができた。



37 学校の直面する問題に適切に対応する研修会を実施することができた。



38 学校は、暑い時期の登下校時の服装について配慮することができた。



分野	重点目標	評価項目	達成・取り組み状況の評価	自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策	学校関係者評価及び意見	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ生徒の育成と基礎学力の育成を図る学習指導。</li> <li>・心の通う生徒指導と生活指導の徹底。</li> <li>・実践することで学ぶ特別活動。</li> <li>・思いやりの心と実践力を育てる道徳、人権教育。</li> <li>・健康、体力の増進と安全教育の徹底。</li> <li>・教育環境の整備と充実。</li> <li>・家庭、地域との連携の重視と特色ある学校作り。</li> <li>・特別支援教育の充実を支える学校体制をつくる。</li> <li>・学校図書館の積極的な活用。</li> <li>・教職員の育成及び指導力の向上。</li> </ul>	<p>1 校訓および学校教育目標（「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒の育成～）の具現化に向け、「目指す生徒像」（自学・挨拶・掃除・時間）に迫ることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>・教職員自身が指導方法を振り返り、自覚を持って教育活動にあたることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への「学校は、校訓および教育目標や目指す生徒像をわかりやすく伝えている」という問いに対する肯定的評価は84.5%と昨年度よりも1.5%上昇し、「学校の教育活動は、保護者の期待や願いにそっている」という問いに対する肯定的評価は87.5%と昨年度とほぼ同じ数値を示している。この数値から、本校の教育活動は、多くの保護者から理解を得ていると推測する。しかしながら、「わかる授業の展開」や「時間のけじめ」等、昨年度からの課題が改善できていないものもある。今後は、研修等を通して、自己研鑽に励むことや生徒との関係性を今まで以上に築いて指導にあたる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との関係性をしっかり築き、より積極的なアプローチをしてほしい。</li> <li>・教職員として自覚をもつことや積極的に研修に参加することが必要である。</li> <li>・特別支援教育を充実させてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標の具現化に向けて、共通理解のもと、教職員がより高い意識で指導にあたりたい。そのためにもモラルアップ委員会等を活用し、教職員の士気を高め、職場の雰囲気改善する。</li> <li>・教職員一人一人が積極的に研修へ参加し、研鑽を積む。</li> </ul>
		<p>2 校訓および学校教育目標（「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒～）の具現化に向け、「目指す教職員像」（生徒に寄り添う・わかる授業・地域を愛する）に迫ることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>・「わかる授業」が課題と答えた教職員が多数いた。</li> <li>・「生徒に寄り添う」ためには、「配慮が必要な生徒」への適切な対応が必要である。</li> </ul>			
		<p>3 校訓および学校教育目標（「立志・自立」～志を立て、夢に向かって自ら努力する生徒～）の具現化に向け、「目指す学校像」（学ぶ意欲・正義・安全・一人一人に応じた支援・信頼）に迫ることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>・教職員が不足する中、尽力する教職員が多かった。</li> <li>・個に応じた支援がより一層必要である。</li> </ul>			

分野	重点目標	評価項目	達成・取り組み状況の評価	自己評価結果の考察に基づく今後の改善方策	学校関係者評価及び意見	自己評価結果と学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策
学校経営・組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員の共通理解と実践を基として、学校教育目標達成のために創意ある学校運営と時代の要請にふさわしい学校づくりを目指す。</li> </ul>	4 校訓および学校教育目標は、学校・生徒・地域の実態に即していた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>やや高いという意見もあったが、上記の結果から、実態に即していると判断した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務分掌の偏りや人員の配置については、昨年度からの課題である。今後は、ボトムアップで意見を集め、調整を試みたい。</li> <li>ベテラン教職員を積極的に活用することで、中堅教職員を育てる。そして、中堅教職員が初若年教職員を育てるような流れをつくりたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が不足する中、努力がうかがえる。</li> <li>校務分掌の偏りの改善、人員の配置は急務である。</li> <li>学校全体でしっかりと連携がとれるように工夫してほしい。</li> <li>初若年教職員のフォローをお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務分掌の作成、人員の配置については、やはりボトムアップで意見を集め、調整することが適切であると考ええる。</li> <li>ベテラン、中堅教職員を活用した初若年教職員の校内研修等を充実させることで、現状を改善したい。</li> <li>面談を通して、教職員個々の得意分野を把握し、集めた情報を有効活用したい。</li> </ul>
		5 職員は、校訓および学校教育目標や重点目標の意義を理解し、その実現に向け協同して教育を実践していた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも肯定的な意見がやや減少している。</li> <li>教職員間の連携や共通理解が課題である。</li> </ul>			
		6 校務分掌組織の形態は、本校の実情に即し機能的なものになっていた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>肯定的な意見が増加しているものの、高評価とは言えない。</li> <li>校務分掌の偏りの改善は、今後も課題である。</li> </ul>			
		7 職員の各組織への配置は、人数や構成メンバーの年齢・経験・特性などからみて適切であった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>肯定的な意見が増加しているものの、高評価とは言えない。</li> <li>ベテラン・中堅教職員が、初若年教職員を育成できるように、環境を整える必要がある。</li> </ul>			

学年学級経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、学級経営を充実させ、計画的な学級活動を通して、個及び集団を育て正義が通る学級づくりを進める。</li> </ul>	8 学年内の分掌や組織をとおし、各自がリーダーシップを発揮し、スムーズな学年運営が進められていた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>・各主任(リーダー)の育成や教職員個々の役割の確認が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症・情緒障害特別支援学級の教室については、船橋市教育員会と相談し、解決した。</li> <li>・次年度以降も教務主任を中心として、学年保護者会、学級懇談会、保護者面談等を計画する。</li> <li>・ベテラン教職員だけでなく、管理職も主任(リーダー)と積極的にコミュニケーションをとり、育成に携わる。</li> <li>・学級の時間を十分とれるように、教務主任を中心に年間計画から見直しを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の問題が解決したことはよかった。</li> <li>・先を見据えて、リーダーの育成を行ってほしい。</li> <li>・環境については、経年劣化にも対応してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーの育成は、本校の重要課題であるので、OJT等を通して改善を図りたい。</li> <li>・環境については、敷地内の巡回や教職員の声を大切に、「教職員で対応できるもの」と「業者に対応を求めるもの」をしっかりと分けて検討したい。</li> </ul>
		9 学年保護者会、学級懇談会、保護者面談等の計画及び運営は適切であった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>・教務主任が中心となり、見直しをもって計画立て、学校運営を行った成果である。</li> </ul>			
		10 学級の学習環境・生活環境は適切であり、生徒の成長を促すものであった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見がやや減少している。</li> <li>・自閉症・情緒障害特別支援学級(2学級)の教室がそれぞれ離れていることや各学年とも教室環境を整えることが課題である。</li> </ul>			
		11 学級活動を活性化させ、生徒自らがより良い学級・学校づくりに向け、諸問題の解決に努める態度を養うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>・昨年度よりも生徒に対して、積極的に関わろうとした姿勢が評価されている。</li> <li>・学級の時間を十分とる必要がある。</li> </ul>			
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善に努め、基礎的・基本的事項の徹底と個に応じた指導及び知識・技能の活用を図る単元開発を通じて、学力の向上を図る。</li> <li>・自主的な学習習慣と態度の育成を図る。</li> </ul>	12 教育課程(各教科道徳特活行事等)は全体的な調和のもとに編成されていた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>・教務主任が中心となり、教育課程を適切に調整した成果である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降も教務主任を中心として、教育課程を調整する。</li> <li>・教科部会の時間をしっかりと確保し、年間指導計画や学習指導案が適切なものとなるようにする。</li> <li>・熱中症対策として、体育祭を9月から10月に、合唱祭を10月から9月に移動する。その他の行事等についても、学年会議や主任会議等を活用して、改善を図る。</li> <li>・授業改善や評価方法について、積極的に研修を受けるように促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の再検討は必要である。</li> <li>・各教科で話し合う時間をとり、より良い授業、より良い評価を行ってほしい。</li> <li>・行事については、生徒にとって必要かどうかを考え、精選することが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科主任を中心に、教科部会でしっかりと教職員が話し合い、学習指導要領を基に年間計画の作成、授業改善、適切な評価が行えるように努める。</li> <li>・今後も試験前の「質問会」は放課後等を使わず、どの生徒も質問しやすい状況をつくる。</li> <li>・行事については生徒の充実感や達成感を考えつつ、教職員の働き方改革も視野に入れて精選する。</li> </ul>
		13 教科の年間指導計画や学習指導案は改善され、より適切なものとなった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>・各教科とも年間指導計画から見直しが必要である。</li> </ul>			
		14 学校行事の種類・内容・実施時期・規模等は適切であった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的な意見が増加しているものの、高評価とは言えない。</li> <li>・行事の精選や実施方法、実施時期の工夫が必要である。</li> </ul>			
		15 「わかる授業」を展開するとともに、試験前質問会をとおして、基礎学力の定着に努めた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>・対話を重視し、時間をとって取り組んだ成果である。</li> </ul>			
		16 授業において、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力をのばす工夫をした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>・授業の展開をもう少し工夫する必要がある。</li> </ul>			
		17 目標準拠の評価について十分理解し実践するとともに、自己評価や相互評価を取り入れ、指導と評価の一体化に努めた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>・評価方法(方向性含む)について、再度確認が必要である。</li> </ul>			

生徒指導・ 道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導体制を確立し、共通理解を元に組織で行動できる教師集団を目指す。</li> <li>・基本的な生活習慣と望ましい生活態度の形成を図る。</li> <li>・「目指す生徒像」を通し生徒とともに創りあげる学校を目指す。</li> <li>・教師と生徒、生徒同士など語り合いを通して、信頼できる人間関係の構築に努める。</li> <li>・道徳の授業の確保に努め、意図的、計画的な実践を通して生徒一人一人の道徳的実践力を高める。</li> </ul>	18 教育活動全般をとおして、基本的な生活習慣を身につけさせることができた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見がやや減少している。</li> <li>・生徒の時間への意識や廊下での過ごし方について、指導方法を改善する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導主事を中心として、本校の実態にあった指導方法や支援方法を提案し、諸問題について組織的な対応が行われるように資料提供や研修を行う。</li> <li>・道徳教育推進教師を中心として、全学年で道徳の授業改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの早期発見については、メール等の方法を設けることで、悩みを抱える生徒や保護者が相談しやすいように改善してほしい。</li> <li>・道徳の授業時間はしっかりと確保してほしい。</li> <li>・ベテラン教職員や中堅教職員がしっかりと初若年教職員のフォローをしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のスキルアップのために、日頃の情報交換を大切にし、研修を行う必要がある。</li> <li>・教職員の役割分担の確認が必要である。</li> <li>・相談窓口については、会議等で検討する。</li> </ul>
		19 担任一人任せにせず、職員の共通理解と相互協力のもとで、生徒指導を組織的にすすめることができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>・教職員同士がもっとコミュニケーションをとる必要がある。</li> <li>・報告・連絡・相談の大切さを再確認する必要がある。</li> </ul>			
		20 生徒と教師間の「語り合い」や教育相談(教育相談週間・チャンス相談)等とおし、生徒理解を進めるとともに、好ましい信頼関係を築くことができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>・教育相談の時間は確保できているが、やり方については、検討する必要がある。</li> </ul>			
		21 いじめアンケート等も活用しながら、生徒の人間関係にアンテナを高くし、いじめの「早期発見・早期対応」及び「再発防止」に努めた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>・教職員が常にアンテナを高く保ち、収集した情報を共有したうえで、生徒の様子を観察する必要がある。</li> </ul>			
		22 道徳の授業を計画的に実施するとともに、教育活動全体をとおして生徒の「豊かな心」の育成に努めた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>・ローテーション道徳を継続したことで、各教職員が1つの題材について、生徒により深く内容を考えさせることができた。しかしながら、現状に満足することなく、教職員がもっと道徳について学ぶ必要がある。</li> </ul>			
特別活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各活動において、生徒の自発的な活動を展開し、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育み、生徒の可能性を信じ、社会的自立に向け志を立てて自ら努力するように導き、支えることを目指す。</li> </ul>	23 生徒会活動(全校評議会、生徒会行事、専門委員会等)は適切に実施された。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>・特別活動指導部長を中心に、生徒主体の活動を増やした結果である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動指導部については、人員の配置を検討することで、より良い指導部にしたい。</li> <li>・引き続き、部長会議を充実させることで部活動に関わる生徒全体の責任感や連帯感を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主体の活動が増えたことはよいことである。今後も更に向上するように努めてほしい。</li> <li>・部活動については、根本的な意味等を生徒にしっかりと伝える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動については、徐々に改善されている。引き続き、生徒主体の活動が増えるように、特別活動指導部を学校全体でサポートする。</li> </ul>
		24 生徒が役割と責任を自覚し自立した集団作りができるよう促すことができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>・生徒が主体的に活動する中で、教職員のフォローも場合によっては必要である。</li> </ul>			
		25 部活動は計画的な運営により自主性を促し、生徒の責任感や連帯感を養うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見がやや減少している。</li> <li>・今年度は、部長会議の運営方法を改善した。結果が出るまでに時間がかかると考える。</li> </ul>			

健康・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害への日常の備えや的確な避難行動ができるようにし、防災意識の高揚を図る。</li> <li>栄養指導を充実し、体力の向上と健康の増進を図る。</li> </ul>	26 危機管理マニュアルに基づき、安全(交通安全・生活安全・災害安全)に関する指導が計画的に行われていた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>避難訓練について、見直しが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練に体験や消防士からの講話を組み込む等、工夫をする。</li> <li>栄養職員と給食委員会担当教職員が連携して、集会等を企画する。</li> <li>次年度も養護教諭を中心に、学校医等の助言を受けながら感染症対策を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災教育として、災害等が起こったときにBCP(事業継続計画)も考える必要がある。</li> <li>食育や感染症対策は引き続き力を入れてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全主任を中心に、BCPの内容を取り入れた防災教育を行う。</li> <li>食育や感染症対策について学校全体で取り組む。</li> </ul>
		27 学校の給食計画に基づき、給食指導と食育が適切に行われた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも肯定的な意見がやや減少している。</li> <li>生徒の「食」に関する関心を高める必要がある。</li> </ul>			
		28 学校の保健計画に基づき、生徒の健康指導と管理が適切に行われていた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な意見が昨年度と同等であった。</li> <li>昨年度同様に感染症対策を行ってきた結果と考える。</li> </ul>			
生徒支援・特別支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーターの役割を明確にして、校内委員会の機能を生かし関係機関と連携した総合的な支援体制の整備を推進する。</li> </ul>	29 生徒支援・特別支援について、学校として適切な指導体制を構築することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>生徒指導主事を中心として、協力体制が整っていたためと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じてケース会議を開き、個別の教育支援計画や個別の指導計画を充実させる。</li> <li>教職員に校外研修への参加を促す。また、特別支援教育コーディネーターを中心として校内研修も充実させる。</li> <li>校務分掌を見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き丁寧な対応に心掛けてほしい。</li> <li>教職員のスキルアップのために研修を大切にしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導主事や特別支援教育コーディネーターを中心に、全ての生徒に対して、適切な支援ができるように、教職員の学びの機会を設ける。</li> </ul>
		30 各職員が、特別な支援を必要とする生徒を理解し対応することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>研修等を通して、教職員が研鑽する必要がある。</li> </ul>			
		31 長欠傾向の生徒に対する指導は十分であった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>生徒指導主事を中心として、協力体制が整っていたためと考える。また、丁寧な対応に心掛けた結果と考える。</li> <li>支援室の運営や人員の配置については、見直す必要がある。</li> </ul>			
施設設備・情報管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育環境の整備・充実を図るとともに、情報セキュリティに留意する。</li> </ul>	32 学校の施設・設備及び備品の管理は適切であった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>学校全体で施設・設備に注意を払い、修繕が必要な場合は早期に対応した結果と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き学校全体で施設・設備の管理に注意を払う。</li> <li>教職員の物の管理や整理整頓は課題として捉えているので、声かけ等を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識が高まっているようなので、来年度も継続してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識が低下しないように声をかけるとともにチェックシート等も活用したい。</li> </ul>
		33 情報セキュリティに配慮するとともに、個人情報等の管理は適切であった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>昨年度外部監査を受け、意識が高まったためと考える。</li> </ul>			

地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会、関係機関との連携を密に図り、相互の情報交換を通して、教育の醸成に努める。</li> </ul>	34 本校におけるPTAの活動は適切であった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>・講演会や習中縁日等、活動が充実していたためと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より良い学校教育を実施するためには、地域との連携は不可欠である。学校運営協議会等を活用しながら、連携を深めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を充実したものにする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会委員の選定や役割の明確化を検討する。</li> </ul>
		35 生徒の育成にあたり、保護者・地域の方との連携を図り、活動できた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>・昨年度よりも生徒が地域行事に関わったためと考える。</li> </ul>			
研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生きる力をはぐくむ指導法の研究」として「知識・技能の活用」についての単元(題材)の工夫について、研究を進める。</li> </ul>	36 教科部会や研究テーマに沿った研修会が計画的に実施され、授業研究を進めることができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>・研究主任と教科主任の連携を深めることが必要である。</li> <li>・教科部会を充実させる必要がある。</li> <li>・来年度の研究発表に向け、より一層の研修を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究推進委員会を定期的で開催し、研究主任と教科主任の連携を図る。</li> <li>・教務主任と連携して、年間で教科部会を定期的で開催できるようにする。</li> <li>・必要とする研修のアンケートを教職員にとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員には、研修を通して指導力を磨いてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主任を中心として、教職員の指導力向上に努める。</li> </ul>
		37 学校の直面する問題に適切に対応する研修会を実施することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が減少している。</li> <li>・教職員のニーズに応じた研修を企画する必要がある。</li> </ul>			
熱中等症対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症防止に努める。</li> </ul>	38 学校は、暑い時期の登下校時の服装について配慮することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも肯定的な意見が増加している。</li> <li>・体操服登下校の実施、熱中症対策グッズの使用許可等によるものと考ええる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も継続して実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き生徒の健康面に気をつけてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体操服登下校の実施時期を検討する。</li> </ul>